

| | |
|--------------|---|
| Title | 企業家活動のダイナミックス：ベンチャー創造のプロセスと戦略 |
| Author(s) | 金井，一頼 |
| Citation | 大阪大学，2002，博士論文 |
| Version Type | |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/44446 |
| rights | |
| Note | 著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。 |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

| | |
|------------|--|
| 氏名 | かな い かず より 金 井 一 頼 |
| 博士の専攻分野の名称 | 博 士 (経済学) |
| 学位記番号 | 第 17219 号 |
| 学位授与年月日 | 平成14年5月28日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第2項該当 |
| 学位論文名 | 企業家活動のダイナミックスーベンチャー創造のプロセスと戦略ー |
| 論文審査委員 | (主査) 教授 浅田 孝幸 (副査) 教授 高尾 裕二 助教授 小林 敏男 |

論文内容の要旨

本論文は、多様なコンテキストのもとで展開される企業家活動を、①概念定義の観点から、企業家概念の整理と統合を試み、②明らかとなった企業家概念に基づいて、企業家活動の実態を、ネットワークの関連とりわけ「場」の概念から明示化し、③浮かび上がった企業家活動に依拠して、企業家活動のビジネスモデルの特徴を指摘し、企業家活動研究に新たな視座と理論的枠組みを提供しようとする、包括的かつ野心的な研究である。

本論文のねらいと全体の構成を示した第1章に続く第2章においては、様々なコンテキスト、角度から議論されてきた企業家活動の研究をレビューし、経済学および社会学が、それぞれ企業家活動の成果および企業家活動の動機・要因について議論してきたのに対して、経営学の立場からは、企業家活動をプロセスの観点から捉え、イノベーションを遂行するプロセスに焦点を当てた研究が重要であることが強調される。プロセスの視点からいえば、単独のみならずチームで活動する企業家、企業セクターのみならず政府・自治体あるいは市民など多彩なセクターにおける企業家、「起業」のみならず企業ないし地域の再生に関わる企業家といった広範な企業家が同時に研究対象となるはずであり、企業家を、組織内外の多様なネットワークとの関連で捉える必要性が指摘される。

ネットワークの関連から、企業家活動のプロセスの実態は、第3章で、社内ベンチャー（リクルート、大阪ガス）、第4章では、自治体の企業家活動（池田町、富良野市）、第5章で、ベンチャー企業（パソナ、アート・コーポレーション）、第6章で、地域における企業家活動（北海道における住宅関連産業等）が、詳細な事例研究に加えて、ユニークなアクション・リサーチにより分析され、それぞれのイノベーション・プロセスの特徴が、ビジネス・コンセプトの4つの要素ー中核戦略、戦略的資源、価値のネットワークおよび顧客とのインターフェイサーの革新という観点から、それぞれ整理・比較される。

第7章では、とりわけ、地域における企業家活動についてのアクション・リサーチの結果（第6章）を踏まえ、地域産業の問題を新たな事業創造を通じて解決を図り、社会価値の創造を行いながら地域産業を活性化につなげていくという、著者が「ソシオダイナミクス・ベンチャー」とよぶ、社会貢献型ベンチャーが、新たな一つのビジネスモデルとして提示される。そこでは、主体間の相互作用の関係を意味するネットワーク（弱連結）に対して、関係を創発する共有空間を意味し、ネットワークの概念と比べコンテキストの共有度が高い「場」の概念（中連結）が、企業家活動とりわけ産業集積レベルでの企業家活動の分析において有効であることが豊富な事例に基づいて説明されている。

まとめとしての意味をもつ第8章では、改めて「場」の概念が議論され、「場」こそが各メンバーが公式的に所属

する組織を超えた形で展開される企業家活動の一つの形態であり、「場」には企業家活動のプロセスにおける「アイデアから事業コンセプトへの転換」という事業創造における最重要プロセスを促進する機能が認められること、加えて、「場」は産業集積と企業家活動を連結し、事業創造の推進力となることが事例およびアクション・リサーチを通じて明らかにされている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、単独のベンチャー企業から、地域の産業集積に至る広範な企業家活動を守備範囲とした包括的な研究である。分析手法として、精緻な事例研究に加えて、研究者が現場に直接的に関与しながら自身の仮説を検証し実際的な研究上の知見を得るといった新しい手法が用いられ、また導き出された含意として、社会的問題の解決をビジネスとして行い、かつ新規事業の創造を図るという社会貢献型の新しいビジネスモデルを提示するなど、数多くの独創性が認められる。加えて、従来型のネットワーク分析的な企業家活動の研究とは異なり、「場」の概念とその分析枠組みを企業家現象の分析に持ち込んだ点も本論文の貢献の一つである。

今後、これらの新しい分析手法、ビジネスモデルの一層の精緻化が望まれるとはいえ、経営学の立場から企業家活動に関する数多くの実践的含意を導き出した本論文は、博士（経済学）の学位に十分に値するものと判断する。